

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年12月27日（火）

2 確認箇所

- (1) 新事務本館
- (2) D排水路最下流部

3 確認項目

D排水路の排水の連続監視の状況

4 確認結果の概要

発電所構内西側の33.5m盤から1～4号機建屋周辺に流れ込む雨水による浸水リスクを低減するために設置工事が進められていたD排水路が令和4年8月30日から運用が開始された。また、D排水路の排水の放射能濃度について、同年11月29日から遠隔による連続監視が行われるようになったため、その状況を確認した。（図1）

(1) 新事務本館

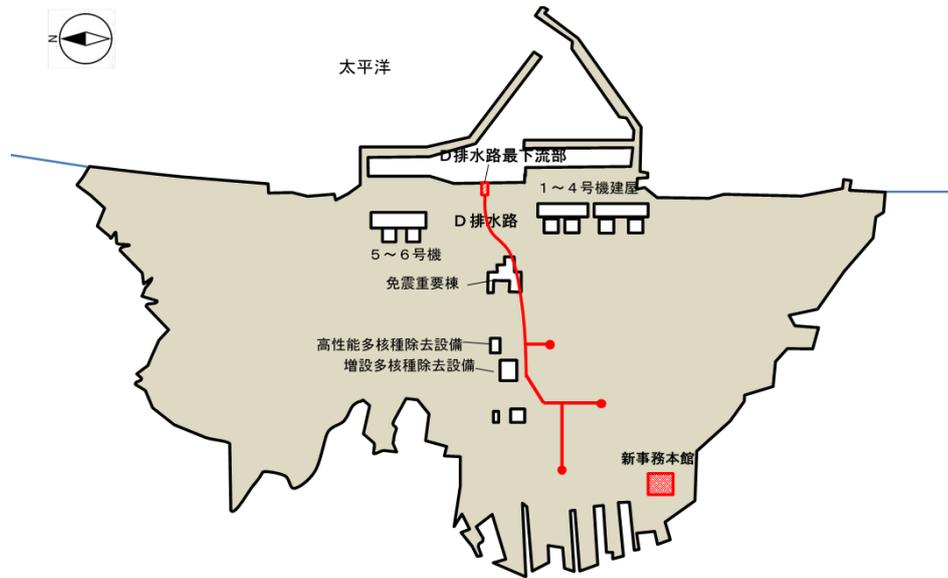
- ・D排水路の排水の放射能濃度について、新事務本館に設置されている設備（ディスプレイ等）で連続監視できる状況を確認した。（写真1）
- ・連続監視のためのモニタは二重化されており、ディスプレイにはA系とB系の測定結果が表示されていた。（写真1）
- ・東京電力によると、排水の放射能濃度が高濃度になると警報が発生するように設定しているが、連続監視の運用を開始してから警報は発生していないとのこと。

(2) D排水路最下流部

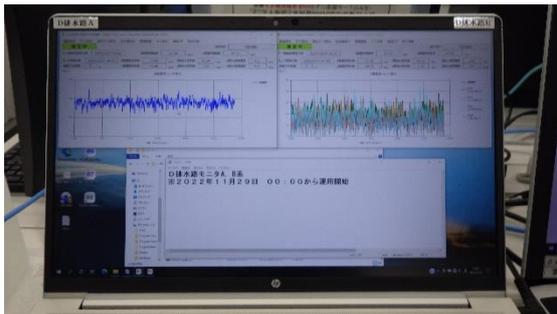
- ・弁別型PSFモニタ※2基、監視カメラ1基、移送ポンプ2基（高警報等水質に異常が発生し排水ゲートを閉じた際に、滞留した排水を回収するためのもの。）が設置されていた。（写真2）
- ・D排水路最下流部に近接して移送ポンプ逆止弁、出口弁がA系とB系の2系統設置されているが、その近辺には、弁を操作するためのハンドルがボックスに保管されていた。（写真3）

※弁別型PSFモニタ

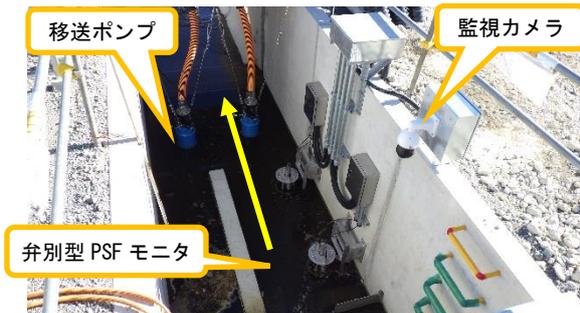
降雨によるフォールアウトの影響（放射性Csの γ 線）で指示値が上昇する傾向があるため、 β 線+ γ 線の検出部と γ 線の検出部を有し、それぞれの測定値の差を取ること、 β 線（Sr-90の寄与）が測定可能。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
D排水路の排水の放射能濃度の結果
を表示するディスプレイの状況



(写真2)
D排水路最下流部の状況



(写真3-1)
移送ポンプ逆止弁、出口弁の状況



(写真3-2)
弁操作ハンドルを保管するボックスの状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。